

平成29年度 堺市立図書館サービス評価

堺市立図書館
第三者評価：堺市立図書館協議会

平成31年3月

目次

1. 地域の知の拠点として、市民の暮らしに役立つ資料・情報を提供します。……………	2
2. 市民の生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します。……………	4
3. 快適な利用空間の提供につとめます。……………	6
4. 地域の情報を収集・保存・提供し「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します。 ……………	8
5. 子どもの読書環境の充実につとめます。……………	10
平成29年度 各図書館の取組状況	
(堺区 中央図書館・堺市駅前分館) ……	14
(中区 中図書館・東百舌鳥分館) ……	16
(東区 東図書館・初芝分館) ……	18
(西区 西図書館) ……	20
(南区 南図書館・梅分館・美木多分館) ……	22
(北区 北図書館) ……	24
(美原区 美原図書館) ……	26
平成29年度の総評……………	28
参考資料	
基本的な活動指標……………	29

第三者評価凡例

- A: 非常に評価できる
- B: 評価できる
- C: あまり評価できない
- D: 全く評価できない

1. 地域の知の拠点として、市民のくらしに役立つ資料・情報を提供します。

市民の多様化・高度化するニーズに対応し、地域の課題解決に必要な資料・情報を提供します。また、レファレンス（調査相談）機能を強化するとともに、ICT を積極的に活用し、情報へのアクセスポイントとしての機能の充実に努めます。

定量的指標・政令市比較	堺市	政令市平均	順位	昨年度
蔵書数	1,891,973 点	2,380,557 点	16 位	16 位
市民千人あたり	2,274 点	1,954 点	7 位	8 位
年間個人貸出点数	4,276,016 点	5,838,015 点	13 位	13 位
市民千人あたり	5,140 点	4,486 点	6 位	6 位
相互貸借借受数	5,787 点	5,853 点	11 位	10 位
市民千人あたり	7 点	5 点	4 位	3 位
資料費	97,319 千円	125,470 千円	11 位	16 位
市民一人あたり	117 円	107 円	7 位	10 位

平成 30 年度政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標	実施状況	目標値	評価
ICT を活用した情報の提供	「本の紹介・ブックリスト」ページ閲覧回数	135,011 回	127,400 回	◎
	新着図書お知らせメール送信点数（冊数）	236,638 冊	230,000 冊	◎
司書の専門性	職員研修参加延人数（館外研修含む）	215 人	150 人	◎
	司書資格保有率（正規職員）	82.5%	90%	○
広報活動	ゆづりは等の広報物発行回数	69 回	50 回	◎
	広報誌掲載件数、報道提供、新聞への掲載件数	・広報さかい 56 件 ・区広報 85 件 ・報道提供・資料提供 4 件 ・新聞への掲載件数 4 件 （合計 149 件）	合計で 150 件	○
	チラシ等発行枚数	59,747	59,700	◎
利用者満足度	来館者調査「全体の満足度」	4.0	4	◎

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

平成29年度の取組について

- ・「中央図書館基本構想基礎調査」として、例年実施している来館者へのアンケートに加え、郵送による市民調査を実施しました。現在図書館を利用されていない方も含め、無作為抽出した市民を対象に、広く市民のニーズや要望等について、調査・分析を行いました。
- ・「図書館司書専門講座」など積極的に外部の研修に参加しました。また、館内整理日等を利用して伝達研修を実施し、研修を受講した職員以外にも内容を共有することで、全体の知識のボトムアップ、より一層の専門性の向上を図っています。

図書館協議会委員の意見と評価

- ・蔵書数他順位は昨年度とほぼ同位ではあるが情報の提供等設定していた目標値を上回っている点で評価できる。
- ・地域の拠点として、資料・情報を提供していることがいいと思う。
- ・資料費は政令市 20 市中の中位であるが、市民一人当たりの貸出点数は、ほぼ全国平均を維持し、20 市中 6 位であることは評価できる。
- ・図書館司書のサービスや必要な資料、情報の提供は満足している。研修などもよくされていて、情報の共有もされている、とのこと。ただ蔵書に関して、もう少し充実できるように予算を増やしてほしい。足りない資料は、相互貸借で補い、利用者に届くようにはなっているが、棚にある本の探索がなかなかできず、魅力的な本との出会いが少ないのは残念。雑誌もとても大切な資料なので、もっとタイトルを増やしてほしい。また児童書などの蔵書も、あるといってもかなり古くなっていたり傷んでいるのもあり、入れ替える必要のある本も見受けられる。
- ・資料費があつてこそ、一定水準以上の図書館サービスを住民に提供することができる。この点について、「基本的な図書館活動指標」や昨年度の政令市平均と比較すると大きく上回っている。今後も関心を持って見守りたい。
- ・「中央図書館基本構想基礎調査」の実施は、市民の図書館に対する意識・認識が大変よくわかり、とくに非来館者の非の理由は、今後何に重点的に取り組むべきかを示唆する点が多く、今後も定期的に行う必要。
- ・「ICTを積極的に活用」することを標榜しているが同分野への取組みは不十分。
- ・職員研修参加の増加をはじめ情報提供数は増加していることは評価できるが、それらが市民の元まで達しているか、非利用者の掘り起しが必要。
- ・アンケートによる達成度がすべて 80%以上となっている。
- ・データベースの利用、他館借り受け、大阪府立図書館の雑誌貸出、国会図書館のデジタル資料の利用等、高度（？）な図書館利用の実績利用が見える化し、利用者への利用指導とPRにも力を入れてほしい。

A:6 人
B:3 人
C:0 人
D:0 人

2. 市民の生涯学習の場として、さまざまな学習機会を支援します。

市民の自主的・自発的な学習活動を支援し、講習会等、さまざまな学習機会の充実に努めます。また、市民との協働により、学びを通じた市民の交流を推進します。

定量的指標・政令市比較	堺市	政令市平均	順位	昨年度
団体貸出点数	71,678 点	83,861 点	9 位	8 位
市民千人あたり	86 点	68 点	6 位	5 位
レファレンス受付件数	83,727 件	93,486 件	10 位	7 位
市民千人あたり	100.7 件	65.7 件	2 位	2 位

平成 30 年度政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標	実施状況	目標値	評価
市民の生涯学習の場の提供	ブックフェア開催回数	354 回	360 回	○
	読書会等への団体貸出点数	1,775 点	2,000 点	○
	家庭・地域文庫、公共施設、のびのびルーム等への団体貸出点数	23,143 点	26,000 点	○
	市民との協働事業実施回数・延べ参加人数(堺図書館サポーター倶楽部、堺メモリー倶楽部、堺図書館ビブリオバトル倶楽部)	*堺図書館サポーター倶楽部:960 回・3,117 人 *堺メモリー倶楽部:25 回・163 人 *堺図書館ビブリオバトル倶楽部:5 回・15 人	(目標値を設定しない)	—
	市民主催事業参加者数 (子ども夢基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力)	585 人	(目標値を設定しない)	—
	子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」参加人数	延べ 259 人	200 人	◎
	「ボランティアステップアップ講座」平均参加率(講座定員に対する参加率)	平均 82%	平均 80%	◎
	図書館主催講演会等開催回数・延べ参加人数 (地域資料記念講演会、堺歴史文化市民講座、課題解決支援講座、市民参加型イベント等)	68 回・921 人	80 回・1300 人	△

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

平成29年度の取組について

- ・旧暦の慶応4年(1868年)2月15日に発生した「堺事件」が発生して150年という節目の年であるため、郷土資料展や記念講演会等も同テーマで実施し、好評を博しました。
- ・市民が独自に行う子どもゆめ基金助成事業(ワークショップ、講演会、勉強会、絵本ライブ等)4件について広報等に協力しました。また、それぞれの会場で講師の著作を集めた「えほんのひろば」を実施の際は資料展示にも協力し、より魅力的な事業となるよう支援を行いました。

図書館協議会委員の意見と評価

- ・生涯学習の拠点としてレファレンスサービスの件数が政令市20市中2位を維持していることは評価できるが、「様々な学習機会を支援」できているか、については検討の余地がある。
- ・政令市比較では、全体的に順位が下がっている。また、もう少し具体的にどのようなことで図書館が貢献しているのか判断材料が欲しい。
- ・市民との協働事業への参加やボランティア講座などは伸びているが、団体貸出点数、レファレンスなどは減少しており、多種の活動への参加はもう少し絞って重点化してもよいのでは。
- ・講座開催数の多さに比して参加人数が少ないと感じられるが、小規模な講座と大規模な催しとの組合せがいのではないか。
- ・レファレンスを利用している市民が多いのは、いいことだと思うし、利用していない人にそういったサービスがあり、図書館の資料をもっと利用して、市民の学習機会を支援していることをアピールし続けることが、大切だと思った。また市民の活動を、広報、チラシ等の協力によって、活動をより活性化させることは、お互いにとっていいことだと思う。
- ・小規模であっても内容が充実した講演会を実施できたことを評価する。どの項目においても若干目標値に到達していないことが残念。
- ・市民の参加者が少ない気がする。
- ・生涯学習としての学校との連携支援がいいと思う。図書館との連携が綿密に行われていると聞いている。
- ・集会室がなかなか使えない、グループ活動や市民活動に自由に使える場がほしい。学びの素に場が加われば生涯学習がもっと活発になり図書館利用も増えると思う。

A:2人
B:6人
C:1人
D:0人

3. 快適な利用空間の提供につとめます。

市民が安全で安心して利用できるよう、親しみやすく快適な読書環境の充実に努めます。また、高齢者や図書館利用に障害のある方が、安心して利用できる場の提供に努めます。

定量的指標・政令市比較	堺市	政令市平均	順位	昨年度
図書館延床面積	18,572 m ²	25,887 m ²	14 位	14 位
市民千人あたり	22 m ²	21 m ²	7 位	6 位
中央図書館延床面積	4,635 m ²	9,440 m ²	15 位	15 位
市民千人あたり	5.57 m ²	6.82 m ²	13 位	13 位
開館日数(中央館)	305 日	310 日	9 位	8 位(※)

平成 30 年度政令指定都市立図書館長会議資料より

※札幌市を除く 19 市で順位付け

平成29年度の取組について

・「中央図書館基本構想基礎調査」では、自由回答欄で施設に対する意見が多く寄せられました。落ち着きがあり、清潔で居心地の良い空間が求められており、今後どのように実現するかが課題です。

・堺市の地域産業を紹介する図書や、地域で仕事をすすめていく上で参考になる図書・パンフレットを集めた「さかい地域産業コーナー」を中央図書館2階閲覧室に新しく設けました。



中央図書館 2 階 さかい地域産業コーナー

図書館協議会委員の意見と評価	
・現状維持ということで「落ち着きがあり、清潔で居心地のいい空間」という市民のニーズに応えられるよう、今後に期待する。 ・市民一人当たりの全図書館の総面積は政令市の中では平均値であるが、中央図書館の規模は20市中13位で平均を下回る。全館的に施設の老朽化が進み、そのことが利用の阻害要因となりつつある。 ・数値データがないので、判断が難しい。高齢者や図書館利用に障害のある方に対して、どのような利用空間を提供しているのか記述がない。今後も記述の工夫を期待する。 ・快適性について具体的に示されていない。 ・東区の場合は、利用空間がゆったりあるし、見通しも非常にいいと思う。特に問題なし。 ・特に新中央図書館に関してだが、滞在型の図書館にあるような独立した机や椅子など、居心地が良く長時間耐えうるものがほしい。現在、ロビーでの学習コーナーは、展示等には、集会室に持ってこられるが、その間は集会室は使えないのが不便。ビブリオバトルもロビーでした方が、飛び入り参加者が増えると思う。今後つくるときには、グループ学習のような、多少声を出してもいい場所もほしい。子ども室のコーナーでは、調べものも大人もする場合があるので、それに対応できるものがほしい。堺市の図書館に対しては、長時間いたい時も多いので、簡単な食事をとれる場所もほしい。 ・「中央図書館基本構想基礎調査」でも、現状改善による努力には限界が明らか。 ・現状の中では、図書館1階ロビーの改装、また玄関前の広い空間を季節によっては有効利用（読書・飲食可能なテラスなど）できないものか。 ・「さかい地域産業コーナー」は、市の該当部署、産業センター、そして各企業との連携を密に。 ・「さかい地域産業コーナー」ができたというのは、いいと思う。知らない人も多いので、PRをもっとした方がいい。 ・建物が古くてどうしようもない面はあるが、中央図書館はもう少し工夫できるのではないか。	A:1人 B:1人 C:7人 D:0人

4. 地域の情報を収集・保存・提供し「歴史文化のまち堺」の発信と継承に貢献します。

堺の地域資料の収集・保存および電子化に取り組むことで、「歴史文化のまち堺」の情報の発信に努め、次世代への継承に貢献します。また、地域資料を活用した文化活動の支援に努めます。

具体的取組	指標	実施状況	目標値	評価
堺の歴史文化に関する資料や市政情報を収集・保存・提供	図書館作成デジタル地域資料閲覧回数	1,463 回	3,000 回	×
	地域資料のページ全体の閲覧回数	443,375 回	405,000 回	◎
	マイクロフィルム化・デジタル化したコンテンツ数	2,177 点	3,000 点	△
	郷土資料展記念講演会参加者満足度	「とてもよかった」、 「よかった」が 97%	85%	◎
	「堺歴史文化市民講座」参加者満足度(平均)	「とてもよかった」、 「よかった」が 95.3%	85%	◎

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

平成29年度の取組について
・郷土資料展「堺事件 150 年」を開催し、関連イベントとして記念講演会「土佐藩士・横田辰五郎のみた堺事件」と「ウィキペディアタウン in さかい」(※)を行いました。記念講演会には 70 人の参加があり、「堺事件」に関係する 4 つのテーマの記事がウィキペディアにアップされました。 ・堺市の地域産業を紹介する図書や、地域で仕事を進めていく上で参考になる図書・パンフレットなどを集めた「さかい地域産業コーナー」を中央図書館 2 階閲覧室に新しく設けました。(再掲) ・堺歴史文化市民講座を4区で実施しました。「堺緞通がたどったみち」(中図書館)、「昭和 30 年代の登美丘劇場―北野田に映画館があった頃―」(東図書館)、「行基と泉州」(西図書館)、「高林家に伝わる『百舌鳥精進』」(北図書館)とそれぞれ満足度の高い講座を実施することができました。 (※)「ウィキペディアタウン」:Wikipedia(ウィキペディア)とは、誰もが編集できるインターネット上の百科事典のこと。堺のまちあるきを行って歴史や文化を学んだ後、図書館資料を使って関連する記事を作成し、参加者が実際にウィキペディアにアップするイベント。

図書館協議会委員の意見と評価	
・郷土資料記念講演会や堺歴史文化市民講座の参加者の満足度が高いことや他市の公共図書館と比較すると歴史・文化の情報発信に力を入れている点などを高く評価する。 ・資料のデジタル化等が目標値に達していないが、ネットに情報発信している地域資料のページ全体の閲覧回数が44万回となり目標値を上回ったことは評価できる。 ・様々な方法で発信につとめている。 ・図書館作成デジタル地域資料閲覧回数の実施回数が少なく残念である。「堺事件 150年」の郷土資料展、講演会の実施は成功していると思うので、今後も市民の興味にあった催しを開催してほしいと思う。 ・地域の情報を収集・保存・提供については、問題ないと思う。堺の歴史文化の発信はいいが、堺の街並みの整理が一番大事だと思う。 ・歴史文化についての講座はとてもよい企画が並んでいる。いずれもやや小規模なのがあったいないため、講座はDVDや冊子の形でその後も活用されるよう願う。 ・参加者が多かった「堺歴史文化市民講座」は、これからもしてほしい。図書館作成デジタル資料の閲覧回数が少ないのは、どうしてか？興味を持つ年齢層は、なかなかHPで閲覧するのが難しいのかもしれない。中央図書館にできた郷土資料コーナーの案内と共に、デジタルの利用の仕方等の説明会をしてもいいと思う。 ・歴史のある町なので、歴史・郷土資料を大切にしている。今後は子ども向けの発信にも力を入れてほしい。	A:7 人 B:2 人 C:0 人 D:0 人

5. 子どもの読書環境の充実につとめます。

乳幼児期から青少年期まで読書に親しめる事業や保護者への啓発活動を推進します。子どもの読書活動を計画的に推進するため、地域のボランティアや学校・幼稚園・保育所等との連携の強化を図り、子どもの読書環境の醸成に取り組みます。

定量的指標・政令市比較	堺市	政令市平均	順位	昨年度
児童書蔵書数	532,006 点	603,116 点	12 位	12 位
市民千人あたり	640 点	506 点	6 位	6 位
児童書個人貸出点数	1,663,112 点	1,856,209 点	9 位	8 位
市民千人あたり	1,999 点	1,432 点	3 位	3 位

平成 30 年度政令指定都市立図書館長会議資料より

具体的取組	指標	実施状況	目標値	評価
区域の読書活動推進	子どもを対象とした図書館主催事業実施回数・延べ参加人数 (おはなし大会、子ども司書講座、児童を対象とした各種講座・堺市図書館まつり等の事業) ※おはなし会等定例行事は「基本的な図書館活動指標」に記載	86 回・4,308 人	100 回・4,700 人	○
	子どもの読書に関わる「ボランティア養成講座」参加人数(再掲)	延べ 259 人	200 人	◎
	「ボランティアステップアップ講座」平均参加率(講座定員に対する参加率・再掲)	82%	平均 80%	◎
市民の主催事業の支援	市民主催事業参加者数(再掲) (子ども夢基金助成事業による講演会等、市民が企画・運営した事業を指す。図書館は広報等に協力)	585 人	(目標値を設定しない)	—
乳幼児とその保護者への啓発活動	「保護者向け講座」平均参加率	67.75%	平均 80%	○

◎：達成度 100%以上 ○：達成度 80%以上～100%未満 △：達成度 50%以上～80%未満 ×：達成度 50%未満

平成29年度の取組について
・ふるさと納税を活用した堺市のふるさと応援寄附金の募集を図書館でも開始しました。絵本を中心とした児童資料の充実を図ることで、親と子が絵本を通してふれあい、子育て世代同士の交流となる場を作ることを目的としています。いただいた寄附金で図書を購入しパックにして団体へ貸出を行うほか、「えほんのひろば」用の資料とするなど、子育ての保護者への支援事業に活用します。 ・「子ども司書」講座について、美原図書館では、美原区役所内に新設された「まちなか文庫」のオープンセレモニーに子どもたちが参加するなど、図書館外での活動を行ったほか、その他の区でも、学校と連携するなど、それぞれの区の独自性を出しながら取組を継続しました。 ・北区役所主催の「北区子育てフェスタ」に北図書館が参加しました。平成29年度はイオンモール堺北花田の紀伊國屋書店とのコラボレーションやボランティアの協力による「えほんのひろば」を実施し、たくさんの方に絵本を楽しんでいただく機会を作ることができました。

図書館協議会委員の意見と評価	
・「基本的な図書館活動指標」や「各図書館の取り組み状況」からみても児童サービスの意識が高いと感じている。 ・市民一人当たりの貸出点数が政令市 20 市中 3 位を維持していることは評価できるが、サービスの位置づけ（目標）の見直し、地区別の利用状況の分析等が必要である。 ・市民参加がとて多く、最も熱心に行われている分野と感じる。 ・保護者向け講座は、子ども支援センターなどと比べて、どちらがうのか、図書館としての独自性が必要なのでは。 ・児童書蔵書数の割合が、他の政令市に比べて高いのではないかと感じられるが、蔵書構成の問題とも関わるので、他の分野へしわ寄せがこないように。 ・ふるさと納税の活用での児童資料の充実は、いいことだと思う。ただ個人貸し出しの資料も、もっと充実してほしい。子ども読書活動に参加する市民が多く、ステップアップ講座の参加も多いことは、それだけ市民の関心が大きい。今後の課題として、保護者むけ講座に来られなくても、そういった内容を伝えられる方法はないものだろうか。 ・ふるさと納税を活用した絵本を中心とした児童資料の充実を図ったことで、活発に子育ての保護者への支援ができたことを評価する。 ・学校との連携も積極的に進めている。 ・子どもの読書環境は、学校により温度差があるように思う、いかがかな？ 充実につとめてほしい。 ・図書館として、熱心に取り組んでいることは認めるが、保育所・幼稚園・学校と一体となって、読書活動推進・促進する活動については弱いのではないか。特に Y A（※）に対して、コーナーを作っただけでなく、もう一歩進んだ取組を期待したい。 （※）「Y A」：ヤングアダルトの略。概ね 12 歳から 18 歳までの青年利用者。	A:7 人 B:2 人 C:0 人 D:0 人

平成29年度 各図書館の取組状況

各区では、それぞれ地域の実情に応じた取組を行っています。次ページからは、平成29年度の取組について、各図書館でページを作成しました。

*Webでの貸出等について

定量的指標	
貸出期限延長点数	344,244 点
予約点数	791,368 点
電子書籍貸出点数	9,312 点

*数値について

- ・人口以外は「平成30年度 図書館概要」より
- ・「協力貸出点数（借受）」には提供不可の点数を含む（各区とも共通）

堺区 中央図書館・堺市駅前分館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	829,291 点	5,614 点
予約点数	58,575 点	397 点
レファレンス受付件数	26,296 件	178.0 件
協力貸出点数(借受)	1,426 点	9.7 点
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	38 点	0.26 点

*堺区人口 147,726 人
(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

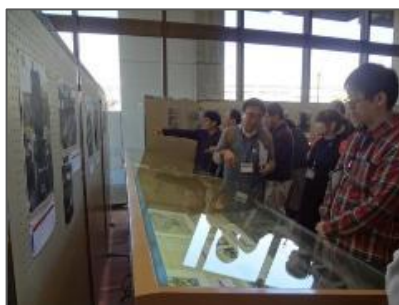
①郷土資料展関連イベント「ウィキペディアタウン in さかい」の開催

・郷土資料展「堺事件 150 年」を開催し、関連イベントとして記念講演会「土佐藩士・横田辰五郎のみた堺事件」と、「ウィキペディアタウン in さかい」を行いました。

(「ウィキペディアタウン in さかい」の様子)



ボランティアガイドによる解説



郷土資料展の解説



編集作業の様子

・「堺事件」に関連する土佐十一烈士記念碑、神明神社、堺台場跡、龍神堂をまちあるきし、歴史やいわれを学びます。また、中央図書館職員の郷土資料展の解説を熱心に聞き、堺事件に関する見識を深めました。その後図書館の資料を活用して編集作業を行い、グループごとにウィキペディアに記事を発信することができました。

②ふるさと納税制度を活用した寄附金の募集を開始

・堺市のふるさと応援寄附金の募集を図書館でも開始しました。絵本を中心とした児童資料の充実を図ることで、親と子が絵本を通してふれあい、子育て世代同士の交流となる場を作ることを目的としています。



図書館協議会委員の意見

- ・古い歴史を持つ堺市。そのいろんな歴史に焦点をあてた講演会を今後も続けていただきたいと思う。
- ・堺事件は好企画ですが、「烈士」の「顕彰」ではなく、維新政府出発時の外交事件が、なぜ堺で、どのような形でおこり、どう対応したのかを客観的に学ぶ機会になったのであれば幸い。
- ・郷土資料展「堺事件 150 年」と関連イベントの講演会、「ウィキペディアタウン in さかい」での街歩きと展示等の学び等のコラボは、なかなか面白い試みだと思った。
- ・ふるさと納税もいい企画だと思う。
- ・市民一人当たりの貸出点数は全国平均をクリアしており、リクエスト、レファレンスサービスの利用率も高い。

中区 中図書館・東百舌鳥分館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	450,814 点	3,651 点
予約点数	22,956 点	186 点
レファレンス受付件数	6,472 件	52.4 件
協力貸出点数(借受)	482 点	3.9 点
うち大阪府外公図書館・大学図書館からの借受	23 点	0.19 点

*中区人口 123,491 人
(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

①講演会の実施

・堺歴史文化市民講座「堺緞通がたどったみち」を12月に開催しました。地元の伝統産業である緞通を取り上げ堺式手織緞通技術保存協会事務局長の久城憲三郎さんと堺市博物館学芸員の堀川亜由美さんを講師として招きました。技術保存の現状報告や、関連資料(緞通の実物、簡易織機など)の展示も行い、多数の市民が参加しました。



・障害者理解促進講座「“見えない”と共に生きよう！」を1月に開催しました。障害者差別解消法が施行されたタイミングで、見えない・見えにくいなど「視覚」に障害がある方への理解を促進する目的で実施しました。講師自身が視覚障害者であり、共に生きる社会を考える上で貴重な講座となりました。

②中区役所等との連携



・区教育健全育成事業の「中区子どもの読書環境充実事業 秋の読書感想文・感想画コンクール」において、小学3・4年生対象課題図書を選定と入賞作品の図書館内展示に協力しました。

(区内対象児童2,409人のうち、約65%が応募)

・中保健センターとの連携で、啓発強化月間に合わせた健康関係のブックフェアを月替わりで行いました。テーマごとにブックリストも作成し、図書館 HP にも公開しました。

③ボランティアとの連携

「わらべうたの会こまめ」の活動を支援し、毎月の「いっしょにあそぼうわらべうた」に加え、父親も参加しやすい土曜日に「みんなであそぼう！わらべうた」を2回開催し、親子一緒に楽しめる機会を増やしました。

図書館協議会委員の意見

- ・講演会の実施について、地元の伝統産業を取り上げ、地元の方や博物館の学芸員を講師としたこの講座は、興味をもって参加する市民が多かったとのことで、なかなかいい企画だと思う。
- ・全般的にサービス実績が若干低い。原因の分析とサービス実績の向上への取り組みが今以上に必要である。
- ・障害者理解促進講座の参加者について、幅広い年齢層に来ていただけているのか。また、今後は共に生きる社会の中で図書館の果たす役割や図書館の課題についても触れて頂きたい。
- ・区役所や保健センター等、関係機関と連携し、展示やブックフェアを開催することで、来館者が増加したことはかなり評価できる。
- ・堺緞通の講座、障害者理解促進講座、子どもの読書コンクール等、地域市民に密着した活動として好感をもった。
- ・障害者理解促進講座もとてもよい試みであり、こういった講座が広がればいいと思う。
- ・ボランティアと連携で、催しを父親が参加しやすい曜日にしたりと工夫がみられる。

東区 東図書館・初芝分館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	474,303 点	5,590 点
予約点数	370,82 点	437 点
レファレンス受付件数	9,546 件	113.0 件
協力貸出点数(借受)	751 点	8.9 点
うち大阪府外公図書館・大学図書館からの借受	21 点	0.25 点

*東区人口 84,841 人
(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

①さかい子ども司書

- ・区内の小学校2校の児童に対して、図書館や本についての講義や、図書館での実習など複数回にわたる講座をおこない、全過程を修了した児童に対して「さかい子ども司書」の認定証を渡しました。
- ・実習の一環として作成したおすすめ本のPOPは、ひがしふれあい文化祭で展示して、多くの来場者に見てもらいました。この取り組みに対し、東区長から児童に賞状が授与されました。



本の分類を学ぶ児童



カウンター実習中の児童



ひがしふれあい文化祭での展示

②堺歴史文化市民講座

- ・昭和 30 年代に北野田にあった映画館「登美丘劇場」について、看板絵師をされていた小林忠市さんと、映画資料のコレクターで研究者の南明弘さんをお招きして開催しました。
- 貴重な当時の写真を見ながらの対談形式の講演の後、小林さんによる看板制作の実演をご覧いただきました。
- 参加者アンケートの自由記入欄には往時を懐かしむ声や、知らなかった地域の歴史に触れることができた喜びの声などが多く見られました。



図書館協議会委員の意見

- ・堺区と同様全国平均をクリアしており、リクエスト、レファレンスサービスの利用率も高い。
- ・他の区と比べて、人口の割りに貸出点数等が多いのは、駅前ということ、滞在型の図書館ということだろうか。その辺を分析してほしい。
- ・当区については、特に問題がないが、他の区については、あまりわからない。逆に聞いてみたいです。？
- ・「さかい子ども司書」の取組みはとても面白く興味深い。講義や実習が複数回とあるが具体的な回数と内容が知りたい。
- ・子ども司書、子どもに図書への意欲をひきだす好企画。
- ・さかい子ども司書の学びと実習の様子がよく分かった。また「ひがしふれあい文化祭」でのおすめ本のPOP参加の取り組みを見てもらえたこと、区長からの賞状は、励みとなったと思う。
- ・「さかい子ども司書」について、どれくらいの児童が参加し、その中で認定証を渡した児童はどれくらいいるのか具体的な数値があればなおよい。
- ・歴史文化市民講座で「登美丘劇場」で実際に関わっていた看板絵師や映画資料コレクターのおはなしは、とても興味深いもので、なかなかいい企画だったと思う。
- ・「堺歴史文化市民講座」の大きな看板制作の実演は迫力があり、利用者にとっては往時をしのぶ機会となった。地域の歴史を生で体感できるサービスを今後も期待する。
- ・「堺歴史文化市民講座」は、地域にかつて存在した賑わいの場の再現、経験した高齢者にいきいきした姿をよみがえらせるとともに、若い世代にも過去の新たな再現へと夢ふくらませたのでは。

西区 西図書館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	407,807 点	2,998 点
予約点数	24,966 点	184 点
レファレンス受付件数	3,489 件	25.7 件
協力貸出点数(借受)	536 点	3.9 点
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	12 点	0.09 点

*西区人口 136,014 人
(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

①医療・保健・福祉関係機関と連携した事業

・西図書館は平成26年度から28年度まで、国立がん研究センター提案の「継続的なワークショップ運営による情報弱者向け がん情報ツールの作成と普及」事業に参加しました。その際に連携した堺市立健康福祉プラザ、堺市立総合医療センター、大阪労災病院、堺市健康医療推進課と現在も継続して事業をすすめています。平成29年12月に健康福祉プラザで開催された「障害者週間フェスティバル」では医療・福祉関係機関と図書館がともに「ひといきリレー講座～がん治療サポート」を実施しました。会場では来館しにくい方にも利用しやすい電子書籍の案内や体験コーナーを設け、好評でした。



②「いろんなことばで絵本を楽しもう」

・羽衣国際大学の留学生の協力を得て、「いろんなことばで絵本を楽しもう」を9月と3月に開催。ハングルやマレー語での絵本の読み聞かせやジェスチャーソングを行い、多文化に触れる機会となりました。さかい西こども司書も参加し、事前に調べてきたことを質問するなど楽しく交流しました。



図書館協議会委員の意見

- ・情報弱者に向けた取組みはとても重要だと思う。「いろんなことばで絵本を楽しもう」は子どもやその保護者が多文化に触れる貴重な機会で評価できる。
- ・「情報弱者向け がん情報ツールの作成と普及」何もかもではなく、特化した独自の活動によって存在価値を高められ敬服。留学生とのそれぞれの母語による読み聞かせやジェスチャーソング、多文化交流実践の場として楽しみである。
- ・医療・保健・福祉関係機関と連携した事業について、西図書館の特性を生かした取り組みで、この事業の期間は終わったが、引き続きの応援は、とても心強く、これからも応援をしていってもらいたい。
- ・「いろんなことばで絵本を楽しもう」について、地域にある大学の留学生の協力で、国際的な交流は、なかなかいいと思った。
- ・大学留学生との交流を通じて、多文化サービスにも力を入れている点进行评估している。
- ・貸出とレファレンスの実績が最も低い、原因の分析と対応が急務である。

南区 南図書館・梅分館・美木多分館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	831,931 点	5,835 点
予約点数	69,857 点	490 点
レファレンス受付件数	19,695 件	138.0 件
協力貸出点数(借受)	1,708 点	12 点
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	31 点	0.22 点

*南区人口 142,586 人

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

①さかい子ども司書

・南図書館において、子ども司書養成講座(全4回)で本や図書館について学んだ小学生が、受講後1年間、友だちや家族に読書の楽しさや大切さを伝える活動を行います。平成29年度子ども司書10名(小学4年生6名、6年生4名)です。

実施内容は、1回目:「図書館について」 2回目:「読み聞かせについて」 3回目:「おすすめ本の POP 作り」 4回目:「読み聞かせ発表会、認定証授与式」です。

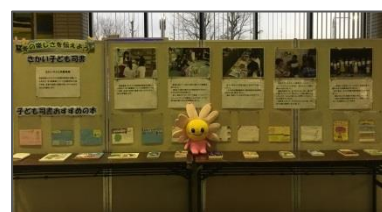


左:保健センターで赤ちゃんへの読み聞かせを行いました。子どもたちは、赤ちゃんがちゃんと聞いて、絵本に反応してくれたことを実感できました。

中:自分の好きな本を持ち寄って、おすすめ本の POP を作成しました。

右:認定証授与式には、ご家族にも参加してもらい、子ども司書が読み聞かせ発表を行いました。

下:POP は南図書館おたのしみフェアや南区役所で展示しました。



南図書館の子ども司書の任期は1年間です。希望者は、任期後も子ども読書リーダーとして、今後も引き続き活動に参加していきます。

図書館協議会委員の意見

- ・一人当たりの予約件数が最多であり、同貸出点数も美原区に次いで多い。
- ・東区と同様、小学生の子ども達が「子ども司書」として熱心に活動している姿がうかがえた。特に保健センターでの赤ちゃんへの読み聞かせはいい経験だと思う。
- ・子ども司書、赤ちゃんへの読み聞かせや、本のPOP作成など子どもたちの意欲を引き出す企画と思う。
- ・さかい子ども司書の様子が、よく報告されていて、子どもたちの様子がわかり、いいことだと思った。ただ、この図書館につらなる市民活動が活発な地域で、そのへんのところの報告も聞きたかった。そういったところで、他の地域よりこの図書館の利用が多いのだろうか。
- ・「さかい子ども司書」以外の取り組みも知りたい。
- ・高齢化が進んでいると聞いている。高齢者への取組も検討してはどうか。

北区 北図書館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	585,691 点	3,688 点
予約点数	44,414 点	280 点
レファレンス受付件数	6,822 件	43.0 件
協力貸出点数(借受)	770 点	4.8 点
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	17 点	0.11 点

*北区人口 158,800 人
(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

①北区子育てフェスタ

・北区の特徴である子どもと子育て層の人口増加を、積極的に図書館利用につなげるため、北区役所主催の同フェスタには北図書館も毎年参加し、ボランティアの協力により、「えほんのひろば」と読み聞かせ会を行っています。平成29年度は会場を堺市産業振興センターからイオンモール堺北花田へ変えて開催しました。施設内の紀伊國屋書店とのコラボレーションで「親子で楽しむ！おすすめ絵本」というブックリストを作成し、えほんのひろば内で配布しました。商業施設内ということで約560名と例年以上の来場者でにぎわいました。



②「ちしきの本」のコーナーを新設

・子どもの好奇心や調べる力を養うため、北図書館の児童書エリアにコーナーを新設しました。一般書や絵本もふくめ、自然科学を中心としたビジュアルな図書を選択して、同コーナーに展示しています。特に大型の図書などは表紙を見せて展示するなどして、子どもたちが手に取りやすい工夫をして、積極的な利用につなげています。



③講座「高林家に伝わる『百舌鳥精進』」の開催

・北図書館では、地域に対する愛情や誇りを育む一助とするため、北区独自の歴史文化をテーマとして「堺歴史文化市民講座」を毎年開催しています。平成29年度は、南北朝時代から続く旧家、高林家の当主をお招きして、高林家に伝わる百舌鳥精進をはじめとする年中行事や、高林家の歴史、重要文化財である高林家住宅の維持管理についてお話を伺い、アンケート結果でも大変好評でした。



図書館協議会委員の意見

- ・一人当たりの貸出点数は中区等程度だが、同リクエストの件数は比較的高いので貸出が伸びる余地があると思われる。
- ・「北区子育てフェスタ」の開催地をイオンモール北花田という商業施設に変更したことで来場者が増加したことはとても有意義だと思う。わざわざ出向くのではなく、買い物ついでに家族で立ち寄るスタンスがいいのではないかな。
- ・「北区子育てフェスタ」について、子育て層の大きいこの区ならではのイベントを、ボランティアの協力で多くの子どもたちと保護者に絵本の面白さを届けられたのは、いいと思った。
- ・「北区子育てフェスタ」では、企業とコラボしている点を評価したい。ブックリスト以外にも「図書館に行きたい」と思えるような企画があればなおよい。
- ・区役所や地域商業施設とのコラボ、この賑わいが図書館利用の増加につながっていけばよい。
- ・自然科学棚の新設、つぎは、子どもたちの実験や観察、モノ作りの場がほしい。
- ・「ちしきの本」のビジュアルな図書の展示は、けっこう目をひき、手に取りやすい。
- ・高林家、一度見学させていただきたい。
- ・講座「高林家に伝わる『百舌鳥精進』」の開催について、北区にある高林家の話、面白かっただろう。（地元として知っていたら行きたかった）

美原区 美原図書館

定量的指標	全体	区民千人当たり
貸出点数	351,935 点	9,165 点
予約点数	17,414 点	453 点
レファレンス受付件数	11,407 件	297.0 件
協力貸出点数(借受)	403 点	10.5 点
うち大阪府外公共図書館・大学図書館からの借受	1 点	0.03 点

*美原区人口 38,400 人
(平成 30 年 4 月 1 日現在)

平成29年度の取組について

①『じんけんエリア』の新設

・美原図書館のティーンズエリア内に『じんけんエリア』を新設。
(平成 30 年 2 月)

10 代の子どもの対象に、人権に関する身近なテーマをとりあげ、図書館資料や関連パンフレット等を配架。テーマに関心を持つことを通じて、人権意識の向上をめざすとともに、そのテーマで悩んでいる子どもへの解決の一助となる効果を期待しています。

また、テーマ(第1回は「LGBT」)にそったブックリストやパンフレットも作成し、区内小・中・高校に配布。学校関係者からの見学や、利用者からブックリストを求められるなど少しずつ利用が拡大しています。



じんけんエリア外観

②『みはら子ども司書』養成講座の開講

・「子ども司書」取組の初年度である今年度は黒山小学校と連携し、小学校内でプレ講座(5 月)を行ったあと、当館で 7 月から 8 月にかけて計 3 回の養成講座を実施しました。

その結果、2 名のみはら子ども司書を任命。活動の一環として、平成 30 年 1 月に美原区役所において、気軽に本と触れる機会をつくるために設置した「まちなか文庫」の除幕式に、みはら子ども司書 1 名も出席しました。



『みはら子ども司書』養成講座



まちなか文庫除幕式(区役所内)

図書館協議会委員の意見

- ・一人当たりの貸出点数は、先進図書館のレベルである。レファレンスサービスの利用率も高く、利用者が図書館を使い慣れているようである。リクエスト、府外からの借受が少ないことから所蔵資料の構成で満足している可能性がある。
- ・この人口で、どうしてこんなに利用が多いのだろうか。とてもいい図書館なので、町内だけでなく、土日にちょっと行ってみようという市民が多いのだろうか？
- ・『じんけんエリア』の新設。画期的で非常に興味がある。色んなテーマで子ども達に「人権」について考える機会を提供していただけることを今後も期待している。
- ・ティーンズエリアからのパンフレット等の活動は、けっこうがんばっているな、と思っていたが、新設された『じんけんエリア』のテーマが「LGBT」。なかなかいい試み。
- ・『じんけんエリア』を新設し、人権意識の向上に貢献している点を評価している。
- ・人権やLGBT、粘り強く継続してほしい。また、相談できる所との連携を作っておいてほしい。
- ・美原区については、特に問題は無し。

平成29年度の総評

- ・全般的には、堺市の市民サービスの視点で努力し、成果が現れていると思われる。各区図書館においても特色を出し事業展開ができていていると思う。
- ・相対的にどの区においても、活発な取り組みが展開されていて評価ができる。とりわけ、「さかい子ども司書」については実際子ども司書として活動する子どもたち（例えば赤ちゃんへの読み聞かせ場面）を見てみたい。知識を深めると同時に、赤ちゃんとの関わりで得るふれあいの大切さ、第三者が興味を持ってもらえるようなPOP作りで得る想像力、などとても良い試みだと思う。今後に期待する。
- ・各館それぞれ企画に取り組んでおられることに好印象を持った。取組には、堺全体としての共通性が必要であるとともに、できるだけ各館の独自性を打ち出し、一定期間の継続を通して新たな価値を加えていってほしい。そういうことが市民の関心を引き起こすのではないかな。
- ・各館の情報提供や講座開催が、来館者向けという印象が強く、非利用者を新たに掘り起こすような情報や講座の提供開催の工夫が必要なのではと感じられる。
- ・各図書館で独自の取り組みを行っている。外部に向かってもっともっと発信を行う。
- ・私は図書館については、全然しらなかったが、図書館の担当する事になり、恥ずかしながら、少しずつ解るようになり、こんなに皆が真剣に取組みしっかり予算を計上して頑張っている事に敬意を表する。また、発信・連携・情報についてもしっかり続けてほしい。
- ・各図書館が、それぞれの地域性を生かしながら、がんばって企画し、地域の人と共に、利用者の参加を促している“活性”を感じた。これからもそういった利用者と手を組んで、各図書館、それぞれ頑張ってもらいたいし、応援する利用者市民も共に活動して欲しいと思った。それには、地域活性化の貢献として、予算が欲しいところだ。これからの社会を見据えたテーマで～例えば高齢化に対しての生き方、障がい者との共生、子どもたちへの視点等々～図書館の役割はいっぱいあると思った。
- ・堺市立図書館では、様々な図書館サービスを積極的に展開・提供しておりその点を高く評価している。また、堺の歴史文化を大切に、企業や大学との交流など、地域に寄り添う姿勢も高く評価したい。
- ・総合的なサービス水準が反映する「市民一人当たりの貸出点数」は、ほぼ全国平均を維持している。他の政令市と比較してランニングコストが低いことを考えれば効率的な運営が行なわれていることが伺える。一方利用やサービスの実績において地域格差がみられる。原因の分析と格差是正の取り組みが望まれる。図書館の施設空間の質は利用の促進にも関連する重要なサービス要素である。その点で堺市の図書館施設は老朽化により質の高い空間の提供が充分とはいえない状況にある。
- ・全般的にイベント中心の目標が多いが、自館の利用実態や利用者層を分析して、どこが弱いかな、よく来る客層など、しっかり分析して自館に必要な、求められる取組み等も考えてほしい。